

研究学園都市周辺地質の見どころ(その7)

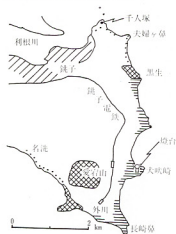
犬吠崎の海岸

田中啓策・坂本 亨(地質部)・正井義郎(総務部)
Keisaku TANAKA Toru SAKAMOTO Yoshiro MASAI

だんだん筑波から離れてしましますが 今回は千葉県へ入って 銚子はずれの犬吠崎、 といってもまだ日帰り可能です。 銚子付近には かつて二叠系と考えられていた三批〜ジュラ(?)系(愛宕山・黒生付近) 下部白亜系(黒生以南) 中新統(夫婦ヶ鼻付近) 鮮新統(名洗付近)や 台地をつくる更新世後期の成田層と各時代の地層が揃っていて さらに中新世の古銅輝石安山岩(千人塚付近)もあって さながら『野外地質博物館』のおもむきです。 化石も各地層から産します。 今回はそのうちの下部白亜系——銚子層群——について 犬吠崎付近を主として紹介します。

銚子層群は 銚子半島の東海岸で 黒生を北限として 南へ約4kmの範囲(第1図の横線部)に見られます。 地質の詳しいことは 専門の論文にゆずることにして 地質見学に良いのは有名な犬吠崎の燈台付近です。 犬吠崎燈台は葉理・層理のよく発達した白っぽい砂岩の上に建っています。 その南方の波食台と灯台の下を一周

する遊歩道が見学に好適です。 以下 写真を御覧ください。 そして 一周したら 燈台に上るもよし 浜辺で波とたわむれるもよし 魚市場へよってみるのもまた といったところでしょうか。



第1図



写真1

燈台南方の海岸に広がる砂岩泥岩互層。南へ緩く傾むく。砂岩には斜交葉理が発達。



写真3 砂岩層の上面に見られる炭質物片（細長い暗色部）
その平行配列により堆積時の水流の方向を示す（向
きは不明）。

写真2
砂岩層の上面に見られるリップルマーク（漣跡）。
燈台南の遊歩道ぞい。



写真4
砂岩層に見られるコンボ
リュート葉理。 燈台南
方の海岸。



写真5
砂岩層内部に見られるスミクイアト
型の生痕化石。 燧台南方の海岸。



写真6
砂岩層の層面に見られる十脚類の巣穴化石
(*Thalassinoides*)。次々とY字型に分岐
している。 燧台南方の海岸。



写真7
海底下の生物の活動によっ
て生じた砂岩層の葉理のじ
よう乱。 燧台南方の海岸。

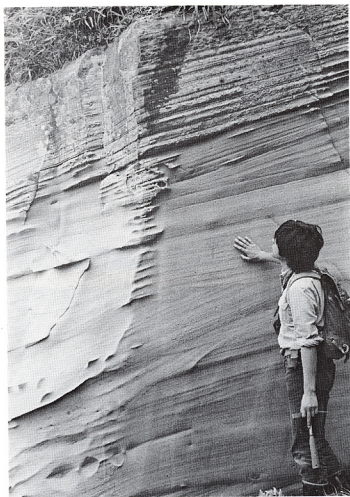


写真8
砂岩層に見られる平行葉理（上部）と斜交葉理（中・下部）。 樞台東北方の遊歩道ぞい。

黒生海岸に見られる白亜系の基底礫岩。これは巨大な岩塊として近くの海底から打ち上げられたもの。礫の配列が垂直で、付近の白亜系の構造とあわな

い。
↓写真9

